

【9月補正予算知事記者会見】 9月6日（水）

まず、豚熱の状況から。殺処分は、83%が終了。6日深夜の作業中に、職員がぬかるみに足を取られ、骨折する事案が発生。安全に心がけ、作業に取り組みたい。

建設業協会、自衛隊、JA佐賀、森林組合など、支援をいただいた皆さんに心から感謝する。

また、32都道府県から53名、国のFAMICや動物検疫所から7名の獣医師を派遣いただいた。ありがたく思う。

今回の殺処分、埋却、消毒と今後のワクチン接種は、家畜伝染病が発生した場合に備えた当初予算2億円で対応する。ワクチン接種の費用は、国が1/2、県の負担分が、当初予算2億円で足らなければ、別途予備費2億円を活用する。

全体防疫体制の規模が、鳥インフルエンザに比べ大きく、現時点で全体経費が見通せない。追加予算の必要があれば、別途措置する。本日発表の中に豚熱関係はない。

令和5年度9月補正予算案

9月補正予算額は295億円。うち、7月の九州北部豪雨災害対策は196億円。通常補正等は99億円。内訳は、事業が13億円。残り86億円は、昨年度の決算剰余金の積み立て、コロナ包括支援金の空床補償などの国庫返納金。

● 令和5年7月九州北部豪雨災害対策

災害の概要

長雨が続く中、線状降水帯が発生。唐津市から脊振山系に係る北部地域と鳥栖市周辺の東部地域で短時間に豪雨が集中した。

7月10日、線状降水帯が発生し、山間部は最大雨量92mm/時、城原川上流では最大雨量85mm/時を記録。山間部で土砂災害、玉島川・城原川で河川水位が上昇、護岸崩壊が起こった。

中山間地を中心に多くの施設被害（道路への土砂流入、河川の護岸崩落）が発生。

元年災害や3年災害は、多くの住家に被害があった。今回は、住家への被害は局所的だった。住家の全壊、半壊、浸水被害は、令和元年は約6,000棟、3年が3,500棟、今回は136棟。浜玉町平原地区の被害は深刻で、3名がお亡くなりになった。8月30日に激甚災害の指定を受けた。

土木・農林関係の被害

元年の被害額は約240億円、3年が約300億円、今回は約360億円。今までとは様相

が違う災害で、被害額が大きく、山間部に集中した。

- ・唐津市の被害額 218 億円のうち、浜玉町、七山村を合わせて 178 億円。
- ・佐賀市の被害額 96 億円のうち、富士町と三瀬村を合わせて 88 億円。
- ・神埼市の被害額 30 億円のうち、脊振村 26 億円。

ほとんどが中山間地に被害を受けた。5つの地域で、被害総額の8割を超える。

道路・河川等の復旧で地域生活を再建

約 117.5 億円を計上。今坂地区の復旧に 6.6 億円。国の緊急事業の採択を受け、砂防ダムを整備し、今後への万全を期したい。

道路啓開や河川の応急事業に約 20 億円。本格復旧に 92 億円。全体で 117.5 億円。

被災された農林漁業者の早急な事業再開を後押し

農業用施設等復旧支援に 2.4 億円。農業用ハウスの修繕や再取得、土砂の撤去に補助率 3/10。ハウスの復旧に国費が出る予定がないため、県の予算で支援する。

次期作等の支援は、栽培開始に必要な種子や種苗等の購入。また、被災作物の草勢・樹勢回復に必要な薬剤、肥料等の購入に補助率 1/3。

鳥獣侵入防止施設復旧支援は、イノシシ対策のワイヤーメッシュの応急的整備に補助率 1/2。

農地・土地改良施設の復旧に 55.3 億円。林地等災害復旧に 19 億円。白石海岸や戸ヶ里など、有明海沿岸での漂着ごみ対策に 1.1 億円。

農林漁業者関係の事業再開を後押しする予算に 78.9 億円を計上。

● 通常補正

賃金UPに向け中小企業の収益力向上を支援

昨年の佐賀の最低賃金は、全国最下位のうちの1つ。今年は、目安額プラス8円で900円とした。伸び率は全国1位、九州では福岡に次いで単独2位。

経済を回していくには、実践的な人材を多く雇用することや付加価値の高い企業群を提携させることが、佐賀の経済成長につながる。最低賃金は、人への投資に位置付けられ、AIやIoT等が発達していく中で、人が担う役割が尊い。そこに投資するのは重要なこと。

世界の中で、日本の最低賃金は非常に低い。アメリカは2,000円超、ロンドンは1,800円程度。世界との賃金格差は大きい。

東京都と神奈川県は、1円しか変わらない。同じ隣県でも、福岡県と佐賀県は、41円も違う。足腰の強い経済をつくるのが佐賀県に求められている。名実ともに、九州単独2位の経済にしたい。

事業場内最低賃金の3%以上の賃上げで、900円を上回るのを条件に、収益向上に必要な機器の購入に補助率2/3を支援する。

賃金アップを促進し、好循環に生かせるような形に仕立て直す予算を4.8億円計上。これは、最低賃金の事業所だけでなく、最低賃金を大きく上回る事業所も対象。工夫して活用してほしい。

漁業者や農業者が前向きに経営を続けられるために

依然として、飼料、肥料、燃料の価格が高騰し、経営を圧迫している。

さが養殖漁業サポートは、国のセーフティーネットだけでは追いつかないため、価格高騰分に対し、新規に県が補助率1/2で支援する事業。

従来、堆肥型の循環型農業への転換を推進していた。これまで、中国産肥料が安く、なかなか進まなかった。しかし、輸入肥料の高騰で堆肥の利活用が進んだ。今回は、第3弾として、堆肥散布機やストックヤードの整備に、補助率3/4の手厚い補助。

さが園芸サポートは、施設園芸における光合成促進装置の稼働、大麦若葉の乾燥機等への燃料費の価格高騰分へ補助率1/2で補助する。

肥前鹿島駅エリアをスローツーリズムの拠点へ

西九州新幹線が開通し、鹿島・太良エリアは、減便とダイヤ改正で厳しい状況に追い込まれている。この地域は、魅力ある資源が豊富にある。酒蔵ツーリズムには、10万人が押し寄せる、まさに旅行の目的地。

単なる駅ではなく、わざわざ訪れたいくなるような、鹿島・太良の歴史や文化が織りなすエリアをつくるため、事業化して県と鹿島市が再開発を行う。

基本コンセプトがまとまり、エリア全体をプロデュースし、実施設計をする。多くの人を引きつけるエリアになるためには、地域のことを知りつくし、開発をする必要がある。11月から鹿島の駅前に職員が常駐。そこに住みながら地域の人と一緒に地域資源の磨き上げを図る。

SSP構想のさらなるすそ野拡大

SSP構想のすそ野を広げるため、施設や学校以外でも気軽にスポーツする場を創出したい。市町が公園を整備する際、バスケットゴールなどスポーツに親しめる設備を設置し、モデル事業にしてはと、以前から県で議論していた。バスケットゴールがあれば、ふだんから子供も大人も、時間があるときにバスケットボールを楽しめる。

佐賀と唐津の2か所で整備予定。佐賀市の場所は、鍋島の交差点の植栽で人が入れない県有地。唐津市は現在場所を選定中。市町の公園整備のモデルケースとなり、か

つ市町と連携してつくりたい。基本計画と設計業務の予算立てをした。

九州佐賀国際空港国際線完全復便へ

4月2日に台北便が運航再開。9月6日は上海便が復活、8日にはソウル便も復活する。4年ぶりに東アジアの3つのハブ空港とつながる。これは、九州では佐賀、福岡のみ。コロナ前は西安便もあった。こちらも交渉していく。

コロナ前の上海便は4便、ソウル便は毎日飛んでいた。まだ3便ずつに留まっている。完全復便を目指すため、情報発信と利用者助成の予算を組み、利用促進に向けた予算1.6億円を計上した。